

令和 7 年度生物多様性モニタリング調査実施計画

1 実施期間

令和 7 年 4 月 1 日から令和 8 年 3 月 31 日まで

2 実施要領

別紙「流山市生物モニタリング調査実施要領」のとおり

3 モニタリング調査員

別紙「生物多様性モニタリング調査員」リストのとおり（省略）

4 モニタリング調査マニュアル

別紙「モニタリング調査マニュアル」のとおり（省略）

5 目的と調査方法

（1）植物相

目的：環境の変化に敏感な草本植物と木本植物を対象とします。流山市の自然環境の基礎を構築している植物相を把握し、外来種による影響や開発などの社会状況の変化をとらえます。

調査方法：調査ルートを設定し、年複数回実施します。花や実など有性繁殖器官の見られる草本植物の種名を記録します。

令和 7 年 4 月～令和 7 年 11 月のうち 2 回

| | |
|---------|----------------------|
| 市野谷の森地区 | 西初石小鳥の森 |
| 宮園地区 | みやぞの野鳥の池、坂川、熊野神社周辺の森 |
| 古間木地区 | 芝崎小鳥の森 野々下水辺公園周辺 |

令和 7 年 4 月～令和 7 年 11 月のうち 3 回

| | |
|---------|-----------|
| 新川耕地西地区 | 西深井北西部 |
| 利根運河地区 | 理窓会記念自然公園 |
| 古間木地区 | 総合運動公園周辺 |

令和 7 年 4 月～令和 7 年 11 月のうち 4 回

| | |
|---------|----------------------------|
| 市野谷の森地区 | 市野谷水鳥の池 稲荷神社裏の谷津 大堀川 |
| 利根運河地区 | 利根運河（A, B, C） |

(2) 鳥類

目的：流山市の自然環境を維持する食物連鎖で重要な役割を担う鳥類の生息状況を把握し、調査を通じて環境変化を調べます。

調査方法：繁殖期（4月～8月）と越冬期（11月～2月）にそれぞれ原則3回、調査ルートを歩いて半径50m以内で確認された鳥類の種名、個体数を記録します。

令和7年4月～令和7年8月の繁殖期に原則3回

令和7年11月～令和8年2月の越冬期に原則3回

市野谷の森地区 市野谷の森

新川耕地西地区 西深井北西部

宮園地区 みやぞの野鳥の池、坂川、熊野神社周辺の森
にしひらい水鳥の池

古間木地区 総合運動公園周辺

(3) チョウ類

目的：チョウ類の生息状況を把握し、調査を通じて森林や草地の植生の状態を把握します。

調査方法：4月から11月の間、月1回を原則として、調査ルートの5m以内で確認されたチョウ類の種名。個体数を記録します。

令和7年4月～令和7年11月の各月1回

市野谷の森地区 市野谷の森

利根運河地区 利根運河

理窓会記念自然公園

(4) 哺乳類（指標種カヤネズミ）

目的：カヤネズミは、ススキやヨシの草原や湿原に生息し、開発や農業の衰退などの人間活動によって、生息数が激減しています。流山市においても絶滅が危惧されることから生息状況をモニタリングします。

調査方法：6月と11月の年2回、巣の数を調査します。

令和7年6月と令和7年11月の2回

新川耕地西地区 西深井北西部

利根運河地区 理窓会記念自然公園

(5) ホタル類 (指標種ヘイケボタル)

目 的：ヘイケボタルの分布状況や個体数の推移をモニタリングし、流山市の水辺環境の状態とその変化を把握します。

調査方法：6月から8月中に最低3回(3日)は実施し、ヘイケボタルの飛翔成虫の分布と、発生ピーク時の個体数を記録します。

令和7年6月から令和7年8月に3回
市野谷の森地区 西初石小鳥の森
稲荷神社裏の谷津
利根運河地区 利根運河
理窓会記念自然公園

(6) 両性類 (指標種ニホンアカガエル)

目 的：ニホンアカガエルの産卵期に卵塊数を調べることで地域のニホンアカガエルの生息状況を長期的にモニタリングし、水辺や森の連続性を評価します。水辺や森が孤立すると、それぞれの環境で維持されてきた生物多様性が減少してしまいます。

調査方法：2月～3月に4回程度田んぼの水路や河川の浅い水域で卵塊の数の変化を記録します。

令和8年2月から令和8年3月に4回
市野谷の森地区 市野谷の森
新川耕地西地区 西深井北西部
利根運河地区 理窓会記念自然公園
古間木地区 野々下水辺公園周辺

6 調査経費の支払いについて

締め日 前期：令和7年9月末日

後期：令和8年3月末日